

第2回「ふくまる夢たまごセミナー」

日 時 8月6日（金）18：00～19：30

内 容 「教師に必要な能力や適性」

講師 谷口 徹（セミナーアドバイザー）

※オンラインで実施

緊急事態宣言のため、当初予定していた「安全教育について」を変更し、オンラインによるセミナーを開催しました。谷口セミナーアドバイザーから「教師に必要な能力や適性」について、学校現場でのエピソードを交えた具体的な話がありました。

講演の概要は以下の通り。

- 思い出深い卒業ソング
- 教育の重要性（教育の役割、学校教育の役割）
- 教師の役割（教師の資質能力の重要性）
- 保護者が考える理想の教師像
- これからの教師に求められる資質能力
- 学校長の求める教師像
- 教師の魅力とは

冒頭、セミナーアドバイザーから4曲の卒業ソングがその思い出とともに紹介されました。また、32年前、卒業を間近に控えた児童が書いた作文は、教職の戒めとしてずっと手元に置いていることを紹介され、教職の魅力とともに教師の言動が子どもの心を容易に傷つける具体例からセミナーはスタートしました。

まず始めに教育の役割について、

- ① 自立した人間を育てること
- ② 個人の能力を伸ばすこと

③ 国家や社会の形成者である「国民」を育成すること

の3点にまとめられました。また、学校は教育における中心的な役割を果たしており、普遍的な役割（不易部分）と時代や社会の変化に的確に対応した役割（流行部分）があることを話されました。

次に、「教師適正チェック」や「保護者が考える理想の教師像」を紹介しながら教師の資質能力・役割について共に考えていきました。特に、教育者としての使命感、子どもに対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、実践的指導力は普遍的な資質能力であると強調されました。

最後に、元学校長の立場から求める教師像について、

- ① 笑顔と挨拶ができること
- ② 心身ともに健康であること
- ③ 子どもから教わることができること
- ④ オンラインではなくオフラインを心がけること
- ⑤ 自分の考えをしっかりと持っていること
- ⑥ 自分のものさしを進化させていくこと

を、挙げられました。

また、特に心がけてほしいことは「謙虚さと協調性」「報・連・相」とまとめられました。

【塾生の感想より】

○今回のセミナーで学んだこと、今後の児童支援研修で意識していきたいこととして、初めに、「自分のものさし」を進化させていくこと、他人のものさしを理解していくことを挙げます。自分の見方と他人の見方とでは、対象が同じであっても異なっていることが考えられ、他人からはどのように見えているのか、自分の見方とどのように異なっているのか、他人には、自分からは見えていないどのようなものがどのように見えているのか、ということを知って、「自分のものさし」を進化させていきたいです。また、様々な人の様々な見方・考え方を知って、同じ見方で見続けるのではなく、異なった視点、あらゆる方面から考えを広げていき、「自分のものさし」を進化させ続けていきたい、と思います。

次に、子ども理解力・授業力が重要であることを挙げます。子ども理解力について、学習における子ども一人一人の好き・嫌いや得意・不得意を理解しておくことに加え、子ども一人一人の人柄等を見ることも忘れてはならないことだと考え、できること・できないことのみならず、個々の人間理解に努めることも大切に考えていきたい、と思いました。授業力について、子どもが真剣に聞き、

発問について考え、集中して受けることができるような授業をする力も大切だとは思いますが、授業において、子どもが学ぶことだけではなく、面白い、楽しい、と思うことへも目を向け、子どもがそのように思うことができるような授業をする力も大切だ、と思います。子どもが授業で、面白い、楽しい、と思うことが、学ぶこと、学びたいと思うこと、次の学習へ繋がることだ、と考え、子どもが意欲を持って受けることができるような授業をすることができる力を身に付けることが重要だと思いました。しかし、子どもの前に立って授業をした経験がないこと、子どもと関わった経験もまだ少ないことから、今後の児童支援研修での子どもとの関わりや先生の授業を行う様子を見て学ぶことを通して、それらについて考えることだけでなく、考えたことを実際に行うことができるように、学びを深めていきたい、と思います。

○「保護者が考える理想の教師」で、「真剣に話を聞いてくれる」、「信頼関係を築けている」の2つを多くの保護者が挙げたということが印象的でした。この2つどちらも、特別教師だけに求められる力でもなく、専門性もなく、社会人として、人として一般的に必要な力だと思いました。このような当たり前のことをどれだけ丁寧に、初心を忘れずにできるかが大切なことなのではないかと考え、心にとめておこうと思いました。

また、保護者とは学級通信を通して「報連相」を行うという最後のお話も印象的でした。私が教育実習でお世話になった担当教員の先生も、こまめに学級通信を出していたことを思い出しました。学級通信の内容も、行事についてだけでなく、普段の授業の様子や子どもたちの考えが書いてあるノートなどの写真を載せて、「今日はこんなことを勉強しました」という日常的内容も学級通信にしていました。保護者の方も、行事だけでなく普段の授業の様子や学習の内容も知ることができて、安心されると思います。私もそのような学級通信を作りたいです。